2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価　Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 **＜概評＞** ・「活動への参加について学部・学科また個々の教員間で意識の差が大きい」ことを自己点検・評価しており、さらなる改善を期待したい。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 **【特筆すべき事項】** 貴大学の特色を活かして、個々の教職員や組織体によって多岐にわたる社会貢献・国際貢献活動が行われていることは評価できる。 **【改善提言】** 多くの社会貢献活動等に関して、一定の成果は見られるものの、その活動の検証が組織的に十分行われていない。これらの活動を大学としての強みに結び付けられるよう、大学全体としての活動の集約と次年度以降の計画への反映が求められる。また、これらの活動は組織的にホームページに掲載し、積極的に公表することも必要と思われる。
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート Ⅳ次年度への課題 より転記） **＜文学部＞** 文学部としてどのような地域交流事業又は国際交流事業が望まれるのかの検討を開始する。 **＜人文科学研究所＞** 社会連携・社会貢献の推進のために実施する研究員による無償出張講演に関する一連の情報を、ホームページから発信するためにも、ホームページの全面的な改善を実施する必要があり、ホームページリニューアル工事を担当部局に引き続き要請していく。

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	文学部、人文科学研究所
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価　対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	**＜文学部＞** 日本文学科学生有志による、板橋キャンパス地域の子供とのスポーツ交流指導、教育学科の「寺子屋」や、書道学科の埼玉県を中心とする「義務教育文字文化推進事業」を展開することで地域の小・中学校への還元を行っている。また、「文学部特別講義」に、学内関係者のみならず、地域の方々の参加も認めている。（ただし、人数調整の困難な場合もある。） **＜人文科学研究所＞** 研究成果の社会への還元は、成果の公刊と、研究報告会の公開によって行っている。また刊行物は併せて図書館リポジトリによる電子化も行っている。また、現研究班の研究課題に関連する内容での講演講習等の要請があった場合、予算措置上、板橋区内に限らざるをえないが、授業等に支障が無いよう時間調整をしたうえで研究員が出張し要請に無償で応じる体制も整備した。併せて、既刊の研究成果物については、残部に余裕がある範囲で板橋区民の希望に応じて無償配布する方針を決定し、情報を発信する準備を整えつつある。
8-2	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** **＜文学部＞** （1）教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動について【×】 具体的事例： （2）学外組織との連携協力による教育研究の推進について【×】 具体的事例： （3）地域交流・国際交流事業への積極的参加について【×】 具体的事例： **＜人文科学研究所＞** （1）教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動について【○】

	具体的事例：研究所研究紀要の公刊とリポジトリによる公開、研究班単位の研究報告書の公刊とリポジトリによる公開、研究班による研究報告会及びゲストを招いて開催する座談会の公開を行っている。 （2）学外組織との連携協力による教育研究の推進について【×】 具体的事例： （3）地域交流・国際交流事業への積極的参加について【○】 具体的事例：研究班の研究課題に関連する内容での講演講習等の要請があった場合、授業等に支障が無い範囲で研究員が板橋内公共施設に出張し無償で要請に応じる体制を整備しつつあるほか、既刊研究成果物については残部に余裕がある範囲で板橋区民の希望に応じて無償配布する体制を整備しつつある。また、リニューアル工事を担当部局に要請しているホームページにこれら関連情報を発信する準備を整えつつある。
8-3	**＜文学部＞** 検証をおこなっているが、今後の取り組みについて、検討を重ねて行く必要がある。検証は各学科および文学部教授会が行う。 **＜人文科学研究所＞** 研究報告会や研究に関する座談会等の関係活動は、「大東文化大学人文科学研究所規程」及び「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」等に従って、所長と各研究班代表者で構成する研究部会で協議し、さらに学部長・研究科委員長・学科主任・所長等で構成する運営委員会、並びに教授会で報告したうえで実施している。さらに、研究部会の議事録、運営部会の議事録も配付し保管しているほか、年度ごとの活動の詳細を「人文科学研究所所報」にも掲載して公開してきた。予算削減から 2016 年度からは「人文科学研究所所報」の公刊を断念したが、ホームページ上にこれらを公開することにした。よって、社会連携・社会貢献の適切性を、研究員・学部構成員に止まらず、だれもが検証できる体制となっている。
8-3	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** **＜文学部＞** 社会連携・社会貢献の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例： **＜人文科学研究所＞** 社会連携・社会貢献の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【○】 具体的事例：ホームページのリニューアル工事が行われれば、研究員の無償出張講演、研究成果の無償配布が実質的に稼働するので、その実績について適切性を研究部会で検討する。

【効果が上がっている事項】

8-2	
8-3	

【改善すべき事項】

8-2	**＜文学部＞** 新たな地域交流、国際交流事業へ参加する必要がある。 **＜人文科学研究所＞** 地域社会の要請に応ずべく研究員が無償で行う出張講演については、実績を見て交通費の計上予算額を点検していく必要がある。また、本研究所刊行物の無償頒布については、刊行物一覧情報を板橋区内地域新聞等に掲載するなど発信し、残部に余裕がある範囲希望者に無償頒布することを決定したが、情報発信方法と配付事務については混乱や行き違いが生じない方法を再度検討する必要がある。また、ホームページのリニューアル工事を引き続き担当部局に要請する。
8-3	**＜人文科学研究所＞**

Ⅲ　**【達成目標】**目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標（2014～2018）	**＜文学部＞** 8-2 新たな地域交流事業又は国際交流事業が開始されている。	新たな地域交流事業又は国際交流事業が開始されている。	→ → →			C	C	
	＜人文科学研究所＞ 8-2 講演・講習の依頼に応じて研究員が無償で出張して行う方法を新たに検討し、社会連携・社会貢献を推進する。	「人文科学研究所所報」、研究部会議事録、運営委員会議事録。講演リストあるいはこれに代わる社会連携・社会貢献推進案の作成。				A	S	
	＜人文科学研究所＞ 8-2 研究成果の刊行物情報を地域に	研究部会議事録、運営委員会議事録。刊行物一覧掲載情報、あるいはこれに代わ				B	S	

	いっそう広めて、希望者に配付する方法を新たに検討し、地域連携・地域貢献を推進する。	る地域連携・地域貢献推進案の作成。					
16 年度 目標	＜文学部＞ 8-2 新たな地域交流事業又は国際交流事業が開始できるかどうかを更に検討する。	新たな地域交流事業又は国際交流事業が開始されている。			C		
	＜人文科学研究所＞ 社会連携・社会貢献の適切な推進のために、研究員が出張して無償で行う講演・講習の実績をもとに、交通費の予算額を検討し、改善点の有無を点検する。また研究所既刊の刊行物の無償頒布についても、情報発信方法を具体化し適宜実施する。	研究部会議事録、運営委員会議事録には研究員出張講演体制を整備するにいたる協議の状況と、刊行物無償頒布のための協議が確認できる。			A		
17 年度 目標	（対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月） ＜文学部＞ 8-2 新たな地域交流事業又は国際交流事業が開始できるかどうかを更に検討する。	文学部としてどのような地域交流事業又は国際交流事業が望まれるのかの検討を開始する。				B	
	（対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月） ＜人文科学研究所＞ 8-2 講演・講習の依頼に応じる無償出張講演、及び研究所既刊刊行物の無償頒布に関する情報を、リニューアルしたホームページから発信し、社会連携・社会貢献を推進する。	リニューアルしたホームページ。				S	

Ⅳ　評価専門委員会所見

8-2 【現状】文学部の板橋地域の子供とのスポーツ交流指導（日本文学科有志）、「寺子屋」（教育学科）、「義務教育文字文化推進事業」（書道家）などの取り組み（子供中心）は評価できます。さらに文学部としての社会へのサービス活動・「社会貢献」、学外組織との連携協力・教育研究の推進、地域・国際交流事業の推進・参加などの取り組みが期待されます。

8-2 【現状】人文科学研究所の場合も、研究員による講演・講習（研究員主張講演体制の構築）、研究所刊行物の無償配布のための「協議が行われた」けれども、具体化はされていません。また、研究所としての社会連携・貢献、学外組織との連携協力・教育研究の推進、地域・国際交流事業の推進・参加などの検討・実施が望まれます。

Ⅴ　所見への対応

8-2 【現状】さらに文学部として、社会へのサービス活動・「社会貢献」、学外組織との連携協力・教育研究の推進、地域・国際交流事業の推進・参加などの様々な取り組みが開始できるかどうか努力いたします。

8-2 【現状】人文科学研究所における「研究員による講演・講習」（研究員主張講演体制の構築）、「研究所刊行物の無償配布」は、ともに要領等を整備済みである。ホームページのリニューアル工事開始までの間に、慎重を期して要領の一部について再度点検する時間を設けていたが、その点検も完了し、現在新ホームページへの掲載工事中である。学外組織との連携協力、国際交流事業の推進・参加については、研究成果の刊行予算さえ大幅削減される状況下、新事業の実施は至難である。ただし、国際化の観点から外国籍の研究員の増員は行っている。

Ⅵ　次年度への課題

＜文学部＞

特になし

＜人文科学研究所＞

１８年度末に始めた無償出張講演、及び研究所既刊刊行物の無償頒布について、それぞれ改善の有無を点検する。

毎年大幅に予算が削減され、研究成果の公刊さえ危ぶまれる状況下、刊行物とくに研究報告書の電子化について検討する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B8-1　大東文化大学の基準別基本方針 HP

http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html　≪既出≫B1-5
〔追加資料〕